

テーマ：『 生き物と親しみ、自然の大切さを感じ、よりよい環境をつくっていかうとする子どもの育成 』

横浜市立 岡津小学校

Tel. 045-811-4104 担当者： 内山 聖司



カルチベーターで花壇の手入れ



校内の樹木に名札をつける活動



地域の川で生き物調査



6年生によるプラネタリウムの公開

■実践内容：

- (1) 学校で生き物とふれあえる環境整備をする。
- (2) 地域で生き物調査をしたり、地域の方の協力を得て農作業体験をしたりすることを通して、自分たちのまちの環境や自然に目を向けさせる。
- (3) 子ども達の身近なところに環境やエネルギーについて考える教材や設備を整える。

■実践成果：

生き物にふれあう場が自分たちの身近なところに増えたことで、子ども達は常に動植物を意識できるようになってきた。6年生に実施したアンケートの結果、9割を超える子どもが動植物は多いと答えた。本校の立地条件は決して自然豊かとはいえないが、身近な小さな動植物を見る目や見つけ出す視点が子どもたちに育ってきたと考えられる。また、9割近くの子供達が生き物や植物が好きであると答え、そのうち6割以上の子が、環境整備を比べた頃よりも動植物に愛着を感じるようになっている。

■実践ポイント：

動植物にふれあったり、見る目を育てたりすることにより地域の自然にも目を向けるようになってきた。地域の中で好きな場所を調査したところ、地域内を流れる川の水辺やマンション建設の際に残った裏山などをあげた子どもが多かった。地域の自然を見直し、大人になってからも環境保全に関わりたいという意識が育って

きたことは大きな成果といえる。